

今後の科学技術外交に関する議論の在り方と 科学技術外交連携推進協議会(仮称)の設置 について

平成24年9月27日

内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付
国際担当

1

科学技術外交に関する議論の在り方について これまでに出了された主なコメント

- 科学技術外交という視点で見ると、(アクションプランや重点施策パッケージで実施されるべき取組として挙げている内容が)研究開発の国際化に寄っているのではないか。
- 知財は各国制度であり、外交との連携が必要ではないか。
- 地域も視点として入れると何かの参考になるのではないか。
- 地域、課題(グリーン、ライフ、防災、標準・知財)、どのような外交・方法(人材交流、共同研究、連携研究等)というマトリックスでの整理が必要ではないか。
- 各省で実施されている国際的な取組が、外交戦略という視点を持って取り組まれているか。
- 3つの戦略協議会に科学技術外交的なマインドを持っている人が数人入っているほうが身のある(各協議会に関連付けた)議論ができるのではないか。

2

論点1

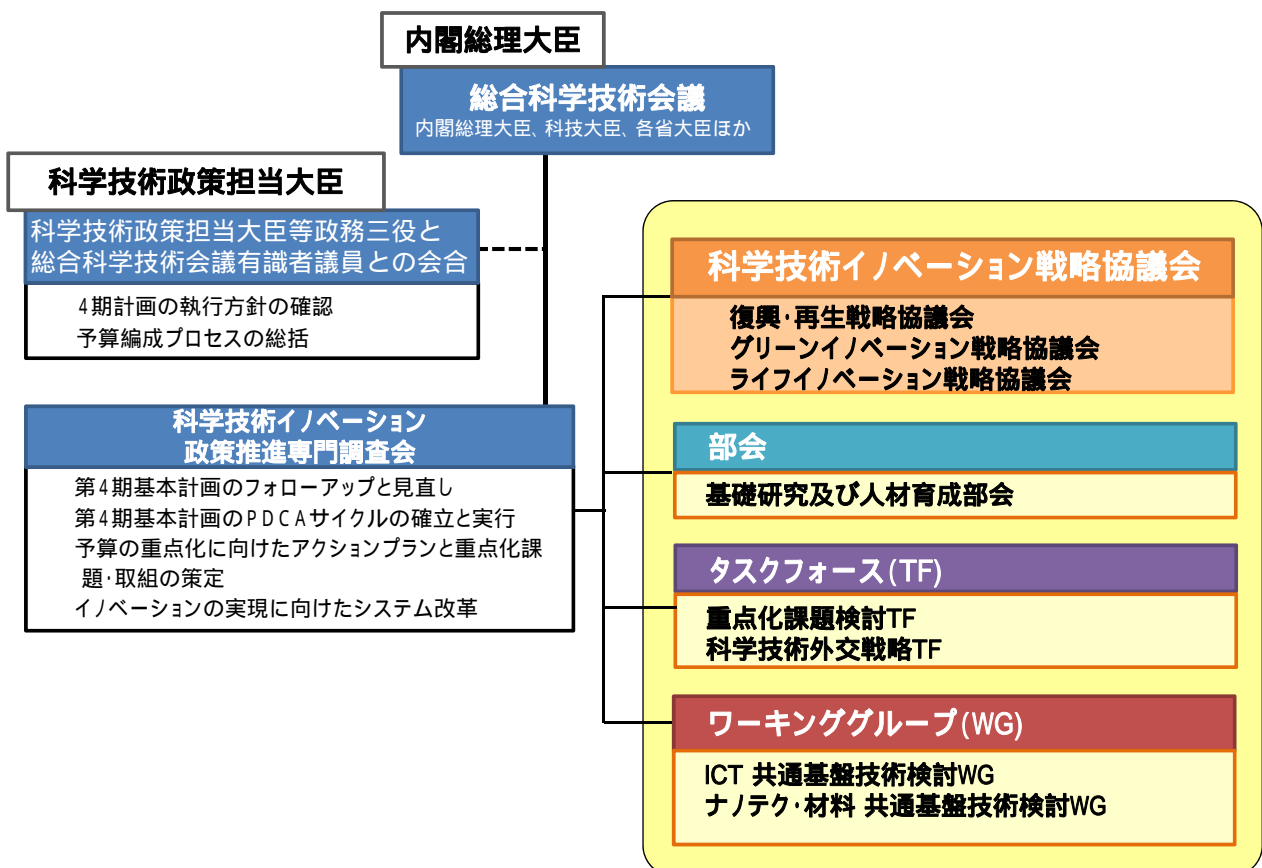
- 科学技術外交において、今後何に関して議論を深めてゆけば科学技術・外交双方の強化につながるか。

論点2

- 科学技術外交連携推進協議会(仮称)を第4期の推進体制の中にどう位置付けるか。他の協議会等との関連性をどう持たせるか。
 - 科技外交協議会で扱うのが相応しいテーマ、他の協議会・部会で議論することが相応しいテーマは何か。
 - 他の協議会等へ議論を反映させるための仕組みをどうするか。

3

第4期科学技術基本計画の推進体制



4